

秋季大会 2025 ご報告

2025年11月9日（日）、立命館大学朱雀キャンパスにおいて、2025年度立命館学校教育研究会総会・秋季大会が開催されました。校友教員の方をはじめとして、立命館大学の学生や大学院生、教育委員会関係者の方々など幅広い職種・年代の約100名の方に対面とオンラインでご参加いただきました。

総会では、上山義宏会長の本大会開催にあたってのご挨拶のあと、「2025年度立命館学校教育研究会運営委員体制」について説明があり、承認されました。続いて井上政嗣副会長より、「2024年度立命館学校教育研究会事業報告ならびに2025年度立命館学校教育研究会事業計画」について説明があり、承認されました。最後に川那部隆司委員（立命館大学教職教育センター副センター長）から2025年度に実施された教員採用試験の傾向や本学学生の受験結果等について報告がありました。

総会後に開催された分科会では、学校現場において関心の高い4つのテーマを設定し、参加者各々が興味・関心のある分科会を選び、講演を聞いたあと、講師やコーディネーターの方を中心に熱心に議論をしました。詳細については、以下にまとめておりますので、ご参照ください。



貴重な機会となりました。

分科会終了後は、茶話会を開催し、講師の先生方や幅広い年代の参加者が親睦を深める

第1分科会

「若手教員しゃべり場～現場で感じたことから～」

コーディネーター：井上 政嗣 氏(雲雀丘学園小学校 教諭)
岸本 琉一 氏(京都市立朱雀第一小学校 教諭)
白神 ひかり 氏(京都市立修学院小学校 教諭)

第1分科会では、対面で10名の参加がありました。岸本先生と白神先生による問題提起から始まり、教職員間のコミュニケーション不足という共通課題について意見交換が行われました。小規模校では業務の多忙さから、大規模校では個々の事情によって、日常的な連携が困難な実情が語られ、授業を見に行く、子どもの様子を共有するなど、自発的な関わりの大切さが再認識されました。



また、長期休暇を利用した自己研鑽の取り組みや、教職員同士の仲間意識の重要性についても共有されました。さらに、豊かな教員とはどのような存在かという問い合わせのもと、子どもたちに学ぶ楽しさを伝え、好奇心を育む力、日々考える習慣を大切にする姿勢が挙げられました。キャリアの長短を問わず、全員がそれぞれの立場で教職員としての在り方を見つめ直す貴重な機会となりました。

第2分科会

「京都文化博物館の映像・情報部門の活動内容・試みと課題について」

講師：大矢 敦子 氏（京都府京都文化博物館 学芸員）

コーディネーター：平岡 信之 氏（大山崎町立大山崎小学校 講師）

第2分科会では、「博物館と学校をつなぐ」をテーマに、京都文化博物館 学芸員の大矢敦子氏を講師に迎え、映像文化を軸とした博学連携の可能性についてご講演いただきました。大矢氏は日本映画史を専門としており、若手育成の映像制作プロジェクトを中心に紹介されました。太秦映画村や松竹の協力を得て、国内外の大学生が日本の時代劇制作を通して学ぶ実践が報告されました。講義では、映像制作が持つ創造的かつ協働的な学びの意義と課題について、具体例とともに説明されました。



これまでの展示資料を活用した連携とは異なり、映像文化を媒介とする取り組みは、初等中等教育から高等教育、さらには国際的な教育協働へと広がりを見せていました。講義後の意見交換では、映像文化の教育的効果や博物館資源の活用可能性について議論が行われました。その結果、博物館が単なる資料提供の場ではなく、共に学びを創造する場であるという認識が深まりました。

第3分科会

「志を育む探究の実践～キャリア教育と教科の学びをつなぐ～」

講師：酒井 淳平 氏（立命館宇治中学校・高等学校 教諭）

コーディネーター：井上 雅彦 氏（立命館大学大学院教職研究科教授・研究科長）

第3分科会「志を育む探求の実践～キャリア教育と教科の学びをつなぐ～」では、対面とオンラインで約50名が参加しました。講師の酒井淳平先生からは、新学習指導要領に基づく探究活動の意義について説明がありました。入試対策だけでなく、卒業後の人生を見据え、生徒自身の世界観を広げることが重要であると述べられました。自校での取り組みでは、3年間の探究カリキュラムを通して、生徒が自ら課題を見つけ、学びを深めていく過程が紹介されました。特に2年次のテーマ設定から3年次の探究活動への展開は、生徒の主体性を育む好事例となっています。



また、高校卒業後にも探究活動の経験が進学先での学びに活かされているとの報告もあり、探究が持続的な学びを生むことが確認されました。教員側も教科指導と探究が地続きであることに気づき、学校全体での意識改革が進んでいる様子が共有されました。

第4分科会

「発達に偏りのある女子への発達支持的生徒指導」

講師：沼田 あや子 氏（立命館大学大学院教職研究科教授）

コ-ティネーター：伊田 勝憲 氏（立命館大学大学院教職研究科教授・副研究科長）

第4分科会では、立命館大学教職大学院の沼田あや子教授を講師に迎え、「発達に偏りのある女子への発達支持的生徒指導」をテーマにご講演いただきました。講演では、発達に偏りのある女子が幼少期にその特性を「性格の問題」と見なされやすく、問題が潜在化しやすい実態が紹介されました。中高生女子のメンタルヘルスは危機的状況にあり、近年は自殺者数の増加や市販薬の過剰摂取などが顕著であること、その背景には発達特性のカモフラージュ（擬態）や自己理解の困難さがあることが指摘されました。



思春期になる前の小学校低学年の段階での早期支援の重要性が強調され、トラブルの兆候が見られた段階でスクールカウンセラーや医療機関と連携することの必要性が示されました。支援者には、個々の成長スピードの違いを理解し、柔軟に対応する姿勢が求められることも併せて述べられました。